

# 環境経営レポート

## 株式会社 エスティビー

### 《ご挨拶》

弊社は、環境関連事業の一つである産業廃棄物収集運搬業を営んでおります。創業15年、起業のきっかけは、当時まだ耳慣れぬゼロエミッションという言葉（今や地球全体の最終目標とも言える構想ですが）を聞き興味を抱いたことにあります。その実現に向けた対策の一部「ある産業に伴う副産物や廃棄物を別の産業における資源として有効活用し循環型社会構築の一端を担う」という考え方に刺激を受け、以来、経済と環境の融合による相乗効果を目指す事業活動を続けております。長引く不況という時代背景のもと、頭に描く青写真の通りには成長を遂げられず歯痒さを感じる反面、減少した収益の分も無駄を省き経営に寄与させるべく取組み続けてくれている社員達に頭の下がる想いもあります。全ての努力が実を結ぶとは限りませんが、結果同様にプロセス重視で諦めない前向きさを益々期待しております。

以下に当社におきます2012年度環境経営の全容を【環境経営レポート】として取りまとめました。今後も「法令遵守」「環境保全」「輸送の安全」の三つのテーマを主軸とし、産業を支えより良い地球の未来を創造する企業を目指し精進致します。

株式会社 エスティビー  
代表取締役 齋藤 孝子

### 《目次》

1. 環境方針	P-1
2. 事業活動の規模	P-2・3・4
3. EA21推進体制	P-5
4. 環境目標とその実績	P-6
5. 環境活動の取組計画と評価	P-7
6. 環境関連法規制の遵守	P-8
7. 代表者による全体の評価と見直し（総評）	P-9

# 1. 環境方針

## ～ 基本理念 ～

株式会社エスティビー（以下“当社”）は、“持続可能な社会を目指す”をスローガンに環境関連事業に参入した初心を重く受けとめなくてはなりません。

我々“人”は、万物の霊長として、その他生物を含む尊い生命を維持・存続させる為、この地球の保護・保全を重要課題と認識し行動する事を使命としています。

当社では、EA21を構築・実践し、各々が“循環型社会を形成する為の一端を担う一員”として努力を怠らず、総力結集し、社会に役立つ企業として存続する事を理念とします。

## ～ 基本方針 ～

基本理念をふまえ、「法令遵守」「環境保全」「輸送の安全」の三つをテーマとし事業活動を行います。

## ～ 重点実施項目 ～

1. 事業活動（産業廃棄物収集運搬業・貨物自動車運送事業・石油製品販売業）に伴う廃棄物処理法・貨物自動車運送事業法・毒劇物取締法・消防法・その他法令を厳守し、環境汚染防止・リサイクル率の向上を目指します。
2. 事業活動に関する環境側面の内、下記に挙げる事項を環境活動重要課題として取組みます。
  - ① 電気、石油資源等、エネルギーの節減によりCO2削減を推進します。
  - ② 節水・使用法の見直しにより排水量の削減を推進します。
  - ③ 廃棄物の減量化分別を徹底し適正管理のもと有効利用を図ります。
  - ④ 車両、物流機器の適正管理及びエコ・ドライブを徹底し、資源枯渇を防止します。
  - ⑤ 物品の調達に当たってはグリーン購入を推進します。
  - ⑥ 周辺住民との調和を大切にし、住み良い地域環境を目指し地域貢献に努めます。
3. 基本方針周知の為、環境教育・啓発活動の実施により全構成員によるEA21の維持向上を図ります。又、この環境情報は社外に開示します。

2013年 1月 1日

株式会社 エスティビー  
代表取締役 齋藤 孝子

## 2. 事業活動の規模

### 1. 事業所及び代表者名

株式会社 エスティビー  
代表取締役 齋藤 孝子

### 2. 所在地

〒370-1127 群馬県佐波郡玉村町上之手2147-5 (本社)  
〒379-2123 群馬県前橋市山王町1-19-14 (事業所)

注) 上記「2. 所在地」につき、本社はEA21認証・登録対象範囲外としています。理由は、あくまで登記上の本社であり、こちらにおける一切の実務は行われていないからです。

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境最高責任者 : 代表取締役 齋藤 孝子  
環境管理責任者 : 専務取締役 杉崎 由里  
担 当 : EA21事務局 齋藤 有美  
連 絡 先 : TEL. 0270-64-4483 FAX. 0270-64-4484 (本社)  
TEL. 027-212-3312 FAX. 027-266-8288 (事業所)

### 4. 事業の内容及び規模

設立 1998年 1月22日  
資本金 1,000万円  
従業員数 8名  
業務内容 I 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物収集運搬事業  
II 産業用設備機器メンテナンス事業(ブース清掃他)  
III 石油製品(毒物・劇物等化学工業薬品)販売事業  
IV 一般貨物自動車運送事業

注) 上記「4. 事業内容」のI～IVまでを認証・登録対象範囲としています。

2012年度年商 1億7,400万円

保有運搬車両	8t平ボディー車	1台
	4t平ボディー車	2台
	4tパッカー車	2台
	3tパワーゲート車	1台
	軽貨物自動車	1台

取扱品目

(産廃) 燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック  
紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・ゴムくず・金属くず  
ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類  
(以上14種類)

(特管) 廃油(揮発油等)・廃酸(腐食性)・廃アルカリ(腐食性)  
廃油(成分指定有害) (以上4種類)

許可県市名 種 別： 許可番号(許可年月日～有効期限)

群馬県	普通産廃：01000054200 (平成20年 6月19日～平成25年 6月18日)
埼玉県	普通産廃：01104054200 (平成21年 5月 1日～平成26年 3月21日)
栃木県	普通産廃：0900054200 (平成23年 5月 2日～平成28年 5月 1日)
茨城県	普通産廃：00801054200 (平成20年12月19日～平成25年12月18日)
長野県	普通産廃：2009054200 (平成23年 9月12日～平成28年 9月11日)
千葉県	普通産廃：1200054200 (平成23年12月21日～平成28年12月20日)

群馬県	特別管理：01050054200 (平成20年 6月19日～平成25年 6月18日)
埼玉県	特別管理：1154054200 (平成22年 1月26日～平成26年12月 9日)
栃木県	特別管理：0950054200 (平成23年 5月 2日～平成28年 5月 1日)
茨城県	特別管理：00851054200 (平成20年12月19日～平成25年12月18日)
長野県	特別管理：2059054200 (平成23年10月 2日～平成28年10月 1日)
千葉県	特別管理：1250054200 (平成23年12月21日～平成28年12月20日)

処理料金 都度御見積致します

注2) 本レポートは、第15期(2012年1月1日～2012年12月31日)の活動期間を対象として作成致しました。

許可内容一覧表（普通産廃）

	群馬県	埼玉県	栃木県	茨城県	長野県	千葉県
燃え殻	○	—	—	—	○	○
汚泥	○	○	○	○	○	○
廃油	○	○	○	○	○	○
廃酸	○	○	○	○	○	○
廃アルカリ	○	○	○	○	○	○
廃プラスチック類	○	○	○	○	○	○
紙くず	○	○	○	○	○	○
木くず	○	○	○	○	○	○
繊維くず	○	○	○	○	○	○
動植物性残さ	○	—	○	—	○	○
ゴムくず	○	○	○	○	○	○
金属くず	○	○	○	○	○	○
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	○	○	○	○	○	○

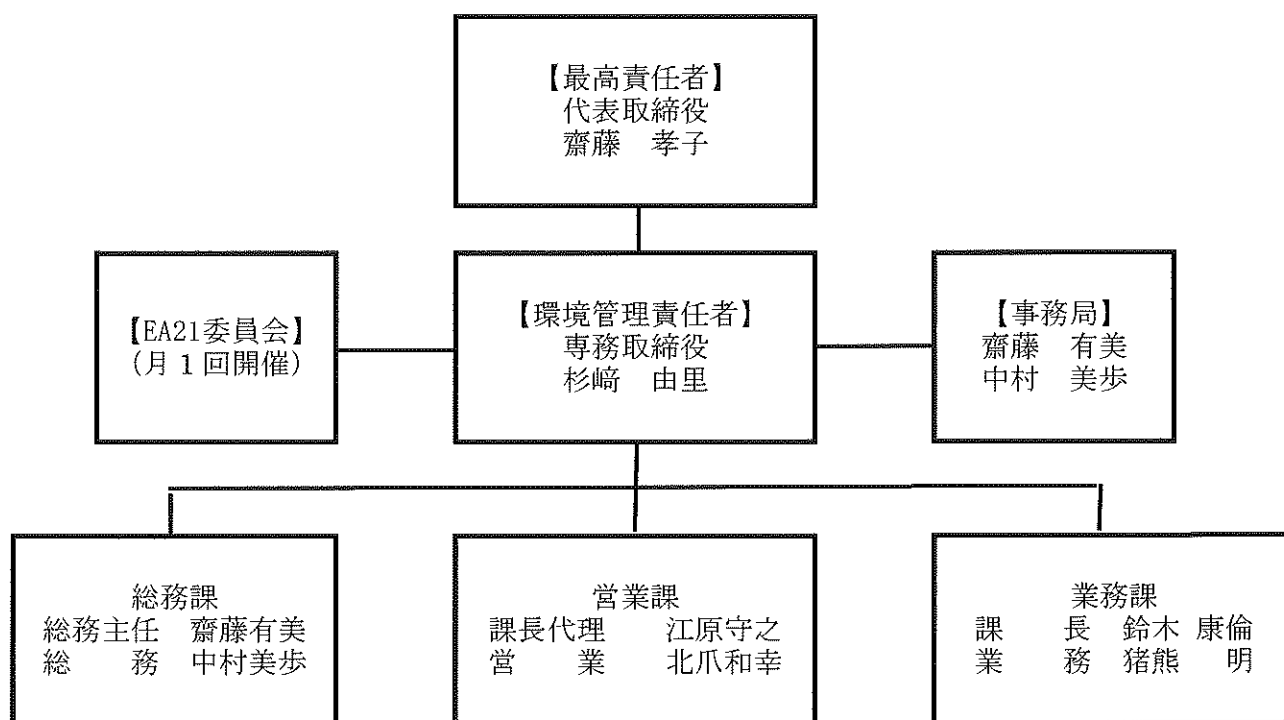
許可内容一覧表（特別管理）

	群馬県	埼玉県	栃木県	茨城県	長野県	千葉県
廃油 （揮発油類、灯油類及び軽油類に限る）	○	○	○	○	○	○
廃油 （トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン・ジクロロメタンを含むものに限る）	○	○	○	○	○	○
廃酸 （p h 2.0以下のものに限る）	○	○	○	○	○	○
廃アルカリ （p h 12.5以上のものに限る）	○	○	○	○	○	○

2012年度産業廃棄物収集運搬実績

廃棄物種類	収集運搬量 (t)	備考
廃プラスチック類	1530.41	左記の収集運搬量は、産業廃棄物として中間処理場へ運搬した実績であり、有価物として再生事業場へ収集運搬した分の実績は含まれておりません。
廃油	340.32	
廃油（引火性）	1395.74	
廃油（有害）	0.42	
金属くず	9.86	
汚泥	40.05	
ガラス陶磁器くず	273.23	
木くず	122.53	
紙くず	59.1	
廃アルカリ	1.37	

### 3. EA21推進体制



職名	役割
最高責任者	<b>【代表取締役 齋藤 孝子】</b> ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③環境方針を制定する。 ④EA21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	<b>【専務取締役 杉崎 由里】</b> ①最高責任者の代理者としてEA21全体の構築・運用に責任を持つ。EA21委員会を主催する。 ②EA21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しの為の情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	<b>【齋藤 有美、中村 美歩】</b> 環境管理責任者を補佐し、EA21に関する実務全般を所管する。
部門責任者	<b>【各部門管理責任者】</b> 担当部門の環境活動計画を遂行する。
EA21委員会	月1回、環境管理責任者が召集し、役員含め全員参加を基本とする。環境目標の審議、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。

## 4. 環境目標とその実績

### 1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	対比実績	2012年度		2015年度	2017年度	環境活動内容
		単年度目標	実績	中期目標	長期目標	
1. 売上高100万円当たりのCO2排出量の削減 (単位：kg-CO2/百万円)	2011年度 排出量 164	2011年度 実績に対し 1%削減 (目標実数162)	排出量 183 (対目標実数 13%増)	2014年度 実績に対し 1%削減	2016年度 実績に対し 1%削減	①走行距離と給油の記録・統計 ②エコドライブ実施 ③適宜な整備による車両の寿命延長 ④事務所内省エネ活動の推進 (待機電力の削減等)
2. 廃棄物(可燃ごみ)の総排出量の削減 (単位：kg)	2011年度 排出量 86.5	87.6/年 未満 (7.3/月 未満)	年間 排出量 84.2	87.6/年 未満 (7.3/月 未満)	87.6/年 未満 (7.3/月 未満)	①裏紙使用徹底(対象：社内用文書・受信FAX中の社外持出しの無い文書・メモ用紙等) ②事業系一般廃棄物排出時は必ず重量計測→著しい増量の際は協議 ③廃オイル量・廃タイヤ数の把握
3. 水資源使用量の削減 (単位：m <sup>3</sup> )	2011年度 使用量 51	57/年 未満 (4.75/月 未満)	使用量 54	57/年 未満 (4.75/月 未満)	57/年 未満 (4.75/月 未満)	①毎月のメーター確認 ②洗車時の水使用の工夫 ③ポットの残り湯で植物へ水遣り
4. 法令遵守	遵法	遵法	遵法	遵法	遵法	①適用法令の周知徹底 ②最新法令の把握 ③日々の遵法度診断(日報記載時) ④実務の適正処理(マニフェスト等)
5. その他の重点実施項目「売上高向上」	2009年度 売上高 199百万円	2009年度 実績に対し 10%向上 (目標額 218百万円)	売上高 174百万円 (対目標額 達成率82%)	当該年度以前に掲げていた「2009年度実績に対し10%向上(目標額218百万円)」という目標につき未達成の場合は継続、既に達成済みの場合は次の目標を再検討	当該年度以前に掲げていた「2009年度実績に対し10%向上(目標額218百万円)」という目標につき未達成の場合は継続、既に達成済みの場合は次の目標を再検討	①四半期毎の売上利益確認と打合せ ②情報収集に努め提案営業の強化 ③配車の効率化(迅速な対応) ④一声運動の徹底(部署問わず全社をあげた自社PR) ⑤情報共有と連携 ⑥倉庫内備品の補充点管理 ⑦安全教育実施

注) 購入電力の二酸化炭素排出係数=0.375 kg-CO2/kWhとしています。

## 5. 環境活動計画の取組みと評価

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
<p>1. CO2排出量の削減</p> <p>『目標』 2010年度実績に対し1%削減</p> <p style="text-align: center;">目標達成状況：×</p>	<p style="text-align: center;">～ 1%削減の目標に対し13%増 ～</p> <p>CO2排出につながる資源投入量を個別評価した結果、ガソリン：123.8%、灯油：127.1%（共に対前年比）と、20%以上も投入量が増えた資源があったことを未達成要因の一つと考える。そして、もう一つの大きな要因は業績の悪化である。今期売上高が前年同様であったと仮定しCO2排出量を算出しても、数値は、163kg-CO2/100万円で今期目標実績値（162）にわずか届かない。</p> <p>事業活動における資源投入という行為は投資要素が強い。投資である以上、それに伴う大小様々なリスクというものの回避は不可能だが、原単位指標による各種生産要素の効率化判断は環境経営におけるリスク分散ではないかと認識しており、来期は、業績向上を最念頭に活動を行い目標達成を目指す。</p>
<p>2. 廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減</p> <p>『目標』 排出量87.6kg/年末満（7.3kg/月末満）</p> <p style="text-align: center;">目標達成状況：◎</p>	<p>数値自体は目標達成。但し、もはやこれ以上の削減は難しいと考えている。よって、今後は現状維持に努める。</p>
<p>3. 水資源使用量の削減</p> <p>『目標』 使用量57m<sup>3</sup>/年末満（4.75m<sup>3</sup>/月末満）</p> <p style="text-align: center;">目標達成状況：◎</p>	<p>例えば、塗料の入っていた缶を金属くずとして回収する場合、乾ききっていない塗料が荷台やあおりに付着し洗車時間が長くなるケースがあった為、今期から、その類を収集運搬する際は荷台にシートを敷くことにした。シートは、若干破れても汚れても複数回使用でき、且つ、洗車時間が短縮され効果有りと評価する。</p>
<p>4. 法令遵守</p> <p>『目標』 遵法</p> <p style="text-align: center;">目標達成状況：◎</p>	<p>営業・業務両課に属するスタッフは、各々、日々の日報にて遵法度自己診断をしている。総務課スタッフは、マネーフレスト管理をはじめとする日々の実務を適正にこなす事を自己診断の基準としてしている。また、最新法令の周知については、EA21委員会にて発表し遵法意識を高めている。</p>
<p>5. その他の重点実施項目</p> <p>『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①2009年度実績に対し10%の売上高向上</li> <li>②輸送の安全</li> <li>③5S強化</li> </ul> <p style="text-align: center;">目標達成状況：×</p>	<p style="text-align: center;">～ 目標達成率82%（売上高） ～</p> <p>目標数値は、リーマンショックの翌年、急落した2009年の業績プラス10%としているが、3年続けて同じ目標を掲げるも中々達成できない。無駄の削減意識が高まり変動費削減は実行できているが、失った体力を一日も早く取り戻し、また、更には増強させるべく引き続き総力結集し挑みたい。</p>



## 6. 環境関連法規制の遵守

\* 主な適用環境関連法・その他法令、それらの主な内容については以下の通りです。

法規制等の名称	主な要求事項	遵守状況	確認方法
自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別処置法	1. 自動車Nox・PMの排出抑制に必要な処置をとる。 2. 国・地方公共団体が実施する施策（排ガス規制等）への協力をする。	遵法	車検証・装置装着証明書にて確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1. 法3条による事業者の責務を遵守。 2. 2社間契約・マニフェスト交付・委託内容が事業範囲に含まれる事等の委託基準を遵守。	遵法	マニフェスト、契約書（共に当社保管分）を照合確認
貨物自動車運送事業法	1. 事業者は、絶えず輸送の安全性の確保に努めなければならない。 2. 許可、届出、報告等の手続き、また、点呼、文書保管等の実施。	遵法	各種記録（教育、点呼、整備、日報等）にて確認
毒物及び劇物取締法	1. 盗難・飛散・漏洩・地下浸透等の防止措置をとる。 2. 容器・貯蔵場所に適切な表示をする。	遵法	メーカー引取り時、容器の破損の有無・ラベル表示を確認
労働安全衛生法	就労者数が満たない為適用外だが、貨物自動車運送事業法によると“事業者は輸送の安全性の向上を目指し安全衛生面の統括管理をする義務がある”とされており、本法律と併せて解釈しより良い職場環境を目指す。	遵法	健康診断記録・安全衛生教育記録等により確認
消防法	基本として適用外だが、2008年6月より一般家庭においても火災報知器の設置が必要となる為、全くの適用外とは考えない。	遵法	事務所（1・2F）に熱感知式、給湯室・倉庫に煙感知式の火災報知機設置済み
家電リサイクル法	1. エアコン・冷蔵庫等の特定家庭用機器廃棄物の適正な処置と有効利用の確保に努める。 2. 新品入替時は環境配慮型を選択する心掛けを。	遵法	該当するエアコン・冷蔵庫・TVの3種類につき買い替え時に確認
自動車リサイクル法	1. 使用済自動車は許可保有の引取業者に引渡す。 2. 車両購入時にリサイクル料金を支払う。	遵法	買い替え時に確認

\* 尚、過去3年間、上記に掲げた法規への違反はありません。  
また、指摘や訴訟も同様にありませんでした。

## 7. 代表者による全体の評価と見直し

総評： 資源投入量を減らせば、結果として、排出量が減り環境目標の達成に近づく。しかし、事業活動に伴う資源投入という行為には、経営資源獲得への投資要素が強い。弊社に例えて言うならば、リーマンショックに起因する景気の悪化以降、何年も下がり止まらぬ業績不振を打開すべく営業活動に勤しめば、移動距離が増えガソリン使用量は増える。だが、その投資を惜しめば、ビジネスチャンスを逃し向上は望めない。故に、経営資源を増やし、人に社会に貢献しながら当社を存続させてゆく為には投資が不可欠である。けれど、現実には、その理屈に相反し、投資の甲斐なく業績回復のきざしは見え、更にCO2削減目標の達成ならず、そのような二重の苦しみを感している。何もかも不景気のせいにはばかりできないが、環境活動開始から早や7年、当社におけるCO2削減に向けた取組内容に不足を疑うも原因は断定しにくい。今更ではあるが、環境活動、事業活動、いずれも容易くないことを痛感している。